

板野町総合戦略評価シート

(評価対象年度: 平成29年度)

作成者: 板野町総務課

【評価シートについて】

- この評価シートは、平成27年に策定した板野町総合戦略に位置づけられた施策について、KPI等により評価・検証し、必要に応じた総合戦略の評価等を実施するために作成したものです。
- 事業内容と進捗状況・課題欄には、主な取組の成果や課題等を記入しています。
- 今後の取組方針欄には、次年度以降の施策の取組方針を記入しています。
- 自己評価欄は、H29取組内容と進捗状況により、H29年度における施策の担当課における自己評価を記入しています。

自己評価の基準	A:事業内容は適切である B:事業内容は適切だが、課題が少しあり、事業の一部見直しが必要 C:課題が多く、事業やKPIの大幅な見直しが必要 D:事業の休・廃止を含めた検討が必要
---------	---

全体評価	施策数:28項目 A評価:11項目 B評価:14項目 C評価:3項目 D評価:0項目
------	--

基本目標1 新しい人の流れづくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
1 観光魅力の強化による交流拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・「あすたむらんど」訪問客の町中への誘導事業 ・あさんウォーキングフェスティバルの充実・継続 ・常設ウォーキングコースの整備 ・ウォーキングラリーの実施 ・ガイド倶楽部の創設 ・「へんろ文化」の再生事業 	推進	→	→	→	→	<p><H29取組内容> (あさんWF) ・板野町・あすたむらんど徳島・大塚製薬(株)徳島板野工場・徳島スポーツビレッジの官民一体となり町PRを目的としたウォーキングメインのイベントで第9回目開催となる。多世代が楽しめるようにウォーキング以外にもキャラクターショーや地産地消等出店も行っている。 (常設ウォーキングコース) ウォーキングの町いたのとして県内外からの参加者にいつでも歩いて頂けるようあさんWF10kmコース(一部除く)をモデルコースとして整備・あさんWFHPに掲載し活用頂けるようにしている。 (ウォーキングラリー) 町の自然をめぐり健康と参加者間での交流を図ることを目的として総合型地域スポーツクラブへの委託事業としてあすたむらんど徳島(協賛)会場として実施。うどん・ぜんざいのお接待も実施。 <課題> (あさんWF) ・イベントを通じて町をより知って頂くための情報発信方法の検討。 (常設ウォーキング) ・新コースの設置の検討。 (ウォーキングラリー) ・イベントの周知方法の検討。 (ガイド倶楽部の創設) ガイド倶楽部の創設はしたものの、活用までには至っていない。 (「へんろ文化」の再生事業) 遍路道の構造物にお遍路さんがいろいろなステッカーを貼っていたので、統一的なステッカーに貼り替えたりしたが、それ以後、統一的な顕著な活動が見られない。 【H29取組内容】 (「あすたむらんど」訪問客の町中への誘導事業) あさんウォーキングフェスティバルや婚活イベントで町のPRを実施している。 (あさんウォーキングフェスティバルの充実・継続) 産業課で地産地消部門として、飲食ブース等の出店をしている。今後とも出店ブース等の継続とさらなる内容の充実を図っていく。 (「あすたむらんど」訪問客の町中への誘導事業) イベント等で町のPRは実施しているものの事業として、関連できていない。 (あさんウォーキングフェスティバルの充実・継続) ある程度の集客は、できているが、更なる集客増をどう図るかが課題である。</p>	<p>・事業の継続とともに多くの方に町をより知って頂く機会を増やし、効果的な取組になるよう努める。</p> <p>(「あすたむらんど」訪問客の町中への誘導事業) 今後ともあさんウォーキングフェスティバルや婚活イベント、新規の関連イベント等で町のPRを実施していく。 (あさんウォーキングフェスティバルの充実・継続) 今後とも出店ブース等の継続と更なる内容の充実を図っていく。 (常設ウォーキングコースの整備) 財政的なことや費用対効果を検証しながら今後検討をしていく。 (ウォーキングラリーの実施) 現在の状況であれば、実施をすることは難しい。 (ガイド倶楽部の創設) ガイド倶楽部の有効活用を検討していく。 (「へんろ文化」の再生事業) 世界遺産登録に向け、関連自治体と協力しながら、推進をしていく。 ・事業の継続とともに多くの方に町をより知って頂く機会を増やし、効果的な取組になるよう努める。</p>	産業課 教育委員会	B
	実績値		82.7万人	78万人						

基本目標1 新しい人の流れづくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
2 観光と他産業・他部門等との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 付加価値を付けた野菜直売所・収穫体験の場の整備 鳥獣被害対策と兼ねたイノシシ捕獲後の有効利用 徳島ヴォルティス支援と交流促進事業（小・中・高一貫のサッカー教育） 	推進	→	→	→	→	<p>【H29取組内容】 （付加価値を付けた野菜直売所・収穫体験の場の整備） 現在、計画中の道の駅整備事業の中で、直売所等を建設予定。 （鳥獣被害対策と兼ねたイノシシ捕獲後の有効利用） 有害鳥獣として捕獲したイノシシは、埋設処理を基本としているが、猟友会員の捕獲意欲向上や環境負荷削減につながるよう、猟友会員の自家消費等を推進している。 （徳島ヴォルティス支援と交流促進事業） 板野町民デーや県民デーで、町内の団体等に協力を頂いて出店をしたり、抽選会の商品を提供している。また、町内のヴォルティス支援団体と応援ツアーを実施している。</p> <p>【課題】 （付加価値を付けた野菜直売所・収穫体験の場の整備） 直売所の規模や配置、協定等をどのように決定していくかが課題である。 （鳥獣被害対策と兼ねたイノシシ捕獲後の有効利用） 利用が未定である。 （徳島ヴォルティス支援と交流促進事業） 更なる会員や試合での来場者の増加を図ること。</p> <p><H29取組内容と進捗状況> 徳島ヴォルティス支援と交流促進事業 町PRを目的としたあざんWFの運営を特別協賛として徳島スポーツビレッジ（ヴォルティス）と協力し合い、イベントの催しの一つとして町内外の参加者同士がサッカー教室を通じて交流を深めている。 <課題> 実施機会や回数の検討。</p>	引き続き継続していく	産業課 教育委員会	A
	<p>【KPI】 ○板野町観光推進協議会発足：町内企業等2～5団体連携</p>	計画値	1団体	1団体	1団体	1団体	1団体	産業課		
	実績値		-	-						

基本目標1 新しい人の流れづくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
3 道の駅整備による拠点形成	<ul style="list-style-type: none"> ★地元産直品を活かした物産センター・レストランの整備 ★産直市の開催 ★観光案内所の設置 ★水素ステーション・EV急速充電器の整備 ★発災時支援活動拠点と避難所機能の整備 	推進	→	→	→	→	<p>【H29取組内容】 道の駅「いたの」事業手法検討業務をコンサルタント会社に委託し、事業手法について道の駅「いたの」整備基本計画策定委員他、道の駅整備関係者とともに比較検討をし、事業手法をDBO方式に決定した。 また、道の駅「いたの」整備計画の運営等の業務をコンサルタント会社へ委託し、農産物直売所の運営要領や直売所の出荷細則及び出荷者協議会の会則案も検討した。 さらに道の駅「いたの」整備基本計画策定委員他、道の駅整備関係者とともにDBO方式による道の駅の整備を図った県外の自治体へ視察研修を実施した。</p> <p>【課題】 産直市やレストラン等の施設の詳細なレイアウト。 道の駅の運営方法等の詳細決定。</p>	(地元産直品を活かした物産センター・レストランの整備) 道の駅の整備・運営事業に係る民間事業者募集選定アドバイザー業務を委託するとともにコンサルティング会社とDBO方式により実施する募集資料(入札説明書、要求水準書、契約書等)の作成をし、入札参加者から提出があった提案書類等の審査や契約の締結を行い事業者を決定していく。 また、道の駅の視察研修の実施や決定した整備・運営事業者と情報の共有を図り、道の駅の各施設の詳細なレイアウトや施設整備や運営方法を決定していく。	建設課 産業課 総務課	A
	<p>【KPI】 ○産業振興・観光・防災・地域福祉の総合拠点施設形成・構築</p>	計画値	→	→	→	→	構築		建設課 産業課	
	実績値		推進	推進						
	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
4 交流を促す情報等発信環境の整備及び積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ★板野町のイメージ形成とPR強化 (アンジェラ・アキの生まれた町等) 	推進	→	→	→	→	<p>【課題】 アンジェラ・アキさんは、現在アメリカの音楽大学に留学をしており、歌手活動を無期限で、休止をしているので、日本での活動も無くメディアにも出てこない状況で、肖像権の問題がある。</p>	アンジェラさんが歌手活動を無期限休止状態で、PRをしていくのは違和感があり、休止の方向も検討。	産業課	C
	<p>【KPI】 ○町PR動画作成によるホームページアクセス数:20%増</p>	計画値	→	→	→	→	構築		産業課	
	実績値		-	-						

基本目標1 新しい人の流れづくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
5 情報発信機能の強化	・徳島県出身者にターゲットを絞った情報発信	推進	→	→	→	→	【課題】 現在、板野町に移住したいと思ってもらえるような施策としては保育園、幼稚園の無償化等が考えられるが、これらに加えて埋もれている地域資源を掘り起こし、団塊の世代や若者等のU・Iターン希望者に対して居住・就労・生活支援等に係る情報提供や相談についてワンストップで対応する窓口を開設するなど田舎での健康的な生活の場、自己実現や社会還元を図る場を提供することにより移住が「普通の選択肢の一つ」になるよう移住希望者に情報を提供し、定住促進に取り組む必要がある。	板野町には、県南のようなきれいな海が無く、山はあっても県西部のような大自然ではない中、板野町の魅力をどう掘り起こしていくか再検討する必要がある。	産業課	C
	【KPI】 ○「帰って来んでPR動画」ホームページ掲載	計画値	→	→	→	→				
		実績値		-	-					
	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
6 町出身者学生のUターン促進	★町独自の奨学金の創設とUターン者への返済免除	推進	→	→	→	→	〈H29取組内容と進捗状況〉 ・返還の期間内(高校8年、大学10年)に板野町に住居登録を有し、かつ居住し、世帯に町税等の滞納がないとき、奨学金等の全部または一部を免除する。ただし、1年ごとに免除申請届が必要で、免除額は届出のあった1年分ごと。 ・新制度創設に伴い所得認定基準を緩和(H27までは生活保護基準の1.3倍→H28から1.5倍→H29から1.6倍) ・H28年度以降、貸与申請者は大幅に増えている。定住による返還免除制度導入の効果が表われていると考えられる。 ・H28年度貸付終了した者のうち定住を理由とした返還免除申請をした者は1名。H29年度貸付終了者のうち、返還免除申請者は新規2名、継続1名。 〈課題〉 ・申請があっても、所得認定基準を超えているため不認定となってしまう。 ・定住を理由とする返還免除申請者が少ない。 〈H29→H30戦略の改善見直し箇所〉 ・継続して事業を推進していく。	・事業を継続していく。 ・地元の中学校、高等学校へ募集案内のチラシを配付し、奨学金担当教諭と連携をとり、周知に努める。	教育委員会	A
	【KPI】 ○新制度奨学金(緩和規制)の創設:定住率50%(H26:2人、累計18人 定住率50%)	計画値	-	-	-	-				
		実績値		1名	3名					

基本目標1 新しい人の流れづくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
7 里帰り促進	・孫世代の「里帰り」訓練の場としての「大坂分校」の夏季学級の開校	推進	→	→	→	→	<p><H29取組内容と進捗状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲間と体験や思い出を共有し、板野町に「帰ってきたい、住んでみたい」と感じてもらう。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・孫世代の里帰り訓練場としての夏季学級を開校するにあたり、期間及びどのような内容を行うのか、煮詰めていく必要がある。 ・周知方法についても、多数の人が参加してくれるよう検討していきたい。 <p>【H29取組内容】 取組は無かった。</p> <p>【課題】 県外に進学や就職をした方の追跡調査や帰省の状況等を調べる必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実践例や類似例があれば、参考にしながら事業を進めて行くとともに、板野町を良い町と感じてもらえる、効果的な取組になるよう努める。 <p>都市圏の県外に進学や就職をした方が自然と触れ合える環境を求めて、Uターンや移住を考えて頂けるような充実したプログラムを作成や効果的な情報発信を検討する必要がある。</p>	教育委員会	B
	【KPI】 ○「里帰り」孫世代夏季学級体験者：20人以上	計画値	→	→	→	→	20人以上		教育委員会	
		実績値		0人	0人					
	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
8 移住の受け入れ環境の整備	<p>★他市町村からの転入者を対象にした子育て世代対応県産材を利用した住宅の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他市町村（県外）からの転入者の居宅新築等の補助金制度・税制優遇の創設 ・リタイアメント者を対象にした住まいと仕事の斡旋等の受け入れ体制整備 ・地域おこし協力隊を活用し、定住・定着の推進 	推進	→	→	→	→	<p>【H29取組内容】 (リタイアメント者を対象にした住まいと仕事の斡旋等の受け入れ体制整備) 取組は無かった。 (地域おこし協力隊を活用し、定住・定着の推進) 取組は無かった。</p> <p>【課題】 (リタイアメント者を対象にした住まいと仕事の斡旋等の受け入れ体制整備) 移住するには、生活基盤が必要なので、就労支援をどうするか (地域おこし協力隊を活用し、定住・定着の推進) 地域おこし協力隊の任用</p> <p><H29取組内容と進捗状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27年度に町営平田団地南側に用地を取得したが、現状は購入した状態のままである。面積は1,435㎡ また、町内に多くの民間アパートが建設されている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町営平田団地の駐車場が不足しており、取得済みの用地は平田団地駐車場として整備し、戸建て住宅を建設する別の用地を取得する必要がある。 	<p>本町に見合う事業で、地域おこし協力隊が必要と判断されれば、検討していく。</p> <p>事業を継続するとともに、建設候補用地等と、活用できる交付金等を探す。</p>	建設課 産業課	C
	【KPI】 ○子育て世代(転入者対象)住宅整備：1戸建て概ね10戸以上(転入者概ね40人以上)	計画値	→	→	→	→	10戸以上		建設課	
		実績値		-	-					

基本目標2 安定した雇用の創出

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
9 農業力の強化による雇用力の増強	<ul style="list-style-type: none"> 農業法人（個人事業等）の促進による若者の人材育成 企業・JA・金融等の連携による経営・収益力の向上 ブランド化のための地域一体となった取り組み 生産者キャラの情報発信の強化 	推進	→	→	→	→	【H29取組内容】 ・認定農業者向けに税理士による税研修会（年1回）及び町内農業者向けに徳島県農業会議の協力により農業簿記教室（月1回程度）を実施し、税への知識を深め人材育成を行っている。 ・板野町の基幹作物であるにんじんを利用したドレッシング、そうめん等の開発に取組みブランド化を推進している。 【課題】 ・現況の法人数は保っているが、更なる法人数の増加に努める事が必要。	・引き続き税の講習会等を行い、税に対しての農業者の知識向上に努め、法人化に対する意欲を高める。	産業課	B
	【KPI】 ○農業法人化の推進（H26 8法人）：現況以上	計画値	→	→	→	→	10法人以上		産業課	
		実績値		8法人	8法人					
	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
10 農業後継者対策の充実	<ul style="list-style-type: none"> 農業後継者育成事業 体験農業型の県外者受入促進（定住促進） 	推進	→	→	→	→	【H29取組内容】 ・年1回農業者の研修として、農機具メーカーや種苗メーカー等を訪問し農業に対する知識を深め後継者の育成を行っている。 ・随時新規就農の相談は受け入れし後継者となるべく人材の就農支援を行っている。 【課題】 ・新規に就農する人もいるが、加齢により農業を廃業する人はそれ以上に多く、全体としては農業者の減少傾向にある。	・引き続き研修及び、相談受入れ等を行い、後継者の育成や就農支援に努める。	産業課	B
	【KPI】 ○農業後継者：70人（H31）（H26 60人）	計画値	62人	64人	66人	68人	70人		産業課	
		実績値		59人	56人					

基本目標2 安定した雇用の創出

	主要事業の概要・数値目標		工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
			H27	H28	H29	H30	H31				
11 新規就農者の受け入れ体制の充実	・県外からのインターンシップ受け入れによる新たな雇用づくり		推進	→	→	→	→	<p>【H29取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者の受け入れ体制の充実として、随時相談窓口を開いている。インターンシップの受け入れに関して、徳島県や農業会議などで実施している研修などを随時活用していく。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規就農者数は微増である。板野町で農業ができる環境作りが必要。 	・引き続き研修相談受入れ等を行い、徳島県や農業会議の研修も活用していく。	産業課	B
	【KPI】 ○新規就農者数:10人(H31) (H26 3人)	計画値	-	2人	2人	2人	1人			産業課	
		実績値		4人	5人						
	主要事業の概要・数値目標		工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
			H27	H28	H29	H30	H31				
12 六次化産業への取組	<ul style="list-style-type: none"> ★ニンジンドレッシングのブランド化と全国販売 ★新たな六次産業化の素材研究と販路開拓への取組 ・金融機関との連携による六次化ファンドづくり 		推進	→	→	→	→	<p>【H29取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新商品の開発実績はなかったが、地方創生推進交付金を活用し、徳島県と6市町でとくしま六次産業化推進連携協議会を設置。協議会の事業として2月14日～16日に千葉県の幕張メッセで開催されたスーパーマーケット・トレードショー(スーパーマーケットを中心とする食品流通業界に最新情報を発信する商談展示会)に『にんじんドレッシング』『にんじんそうめん』を出展した。また、産地商談会として、東京からバイヤーを誘致し、『にんじんドレッシング』のPRをするなど、商品の販路拡大を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発した商品のブランド化を見込んだ販路拡大方法が課題である。 	・開発した商品のブランド化を目指すため、地場農産物と併せて全国発信を行う。	産業課	B
	【KPI】 ○地元企業の特産品開発:2種類以上(ネット販売促進)	計画値	→	→	→	→	2種類以上			産業課	
		実績値		1種類	0種類						

基本目標2 安定した雇用の創出

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
13 地産地消の推進	<p>★地元商店と地場農産物とのコラボ商品の開発</p> <p>★給食センターにおける地産地消の推進</p> <p>・高齢者健康寿命対策健康食開発研究事業</p>	推進	→	→	→	→	<p><H29取組内容と進捗状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産物活用状況40.9%（H29年度6.11.1調査平均） ・県下平均値42.1% 概ね良好 ・町内農家に出向き野菜の納入を依頼 ・町商工会や味づくり研究会による加工品を使用 ・見積条件に県内産（町内産）と記載 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一回の使用量が少数なため、農家にとってはメリットが少ない ・町内産で賄えるものが限られるため、割合上昇が望みにくい（人参、れんこん等） <p><H29→H30戦略の改善見直し箇所></p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して事業を推進していく <p>【H29取組内容と進捗状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H28に地方創生加速化交付金を活用し板野町ふるさと味づくり研究会に委託し、地場農産物をふんだんに使った高齢者向け弁当の開発。 ・今年度は、開発した弁当の随時提供を行っている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発した弁当を町民に広く浸透させる必要がある。 	<p>・一般公募となると選定が難しいため、信頼のおける農家に直接依頼する形を維持していく。子供たちの口に入るものであるという理解を第一に、安心安全を確保できるかが最重要である。</p> <p>・今後もさらに地場農産物をふんだんに使用したメニューの開発を行っていくとともに、安定した提供が行えるよう他企業との連携も行っていく。</p>	産業課 教育委員会	B
	【KPI】 ○商品開発企業連携数：2業者以上	計画値	→	→	→	→	2業者以上		産業課	
		実績値		-	0業者					
	【KPI】 ○学校給食センター食材地元業者購入：町商工会加盟店（270）現況以上	計画値	-	-	-	-	-		教育委員会	
		実績値		10店	10店					
【KPI】 ○健康食開発・地産地消レストランメニュー開発：10種類以上	計画値	→	-	→	→	10種類以上		産業課		
	実績値		11種類	0種類						
【KPI】 ○介護保険認定率：18%未満	計画値	→	19%未満	19%未満	19%未満	18%未満		福祉保健課		
	実績値	→	19.9%	20.3%						

基本目標2 安定した雇用の創出

	主要事業の概要・数値目標		工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
			H27	H28	H29	H30	H31				
14 企業誘致の促進	・町有地の未利用地を活用した企業立地の誘導 ★サテライトオフィス等の誘致（関所跡等の活用）		推進	→	→	→	→	【H29取組内容】 サテライトオフィス誘致に向けて大坂御番所跡の駐車場の環境整備を行った。 【課題】 優良企業の誘致の推進にあたり公共施設等の有効活用	更なる企業誘致を推進し、空き家や公的施設等の活用を図り、有効活用を検討する。	産業課	B
	【KPI】 ○サテライトオフィス・コールセンター等情報関連産業誘致：2社以上	計画値	→	1社	→	→	1社			産業課	
		実績値		1社	0社						
	【KPI】 ○民間活力を利用した企業立地件数：2社以上	計画値	→	1社	→	→	1社			産業課	
実績値			2社	0社							
	主要事業の概要・数値目標		工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
			H27	H28	H29	H30	H31				
15 立地条件を活かした新たなビジネス展開	・ICT等の利活用による地域の活性化 ・スポーツ合宿等を含めた宿泊施設の立地誘導 ・交通条件を活かした流通業の立地誘導		推進	→	→	→	→	<H29取組内容と進捗状況> 田園パークやスポーツビレッジ等各町内施設活用を促進し、町外住民を呼び込むことで中長期滞在において町内の魅力を発見できる足掛かりとなるよう宿泊施設の立地誘導に取り組む <課題> 宿泊施設の立地誘導に向け、期間及びどのような内容・順序立てを行うか検討する必要がある。 【H29取組内容】 ICTの利活用や宿泊施設の誘致、交通条件を活かした流通業の立地は、できなかった。 【課題】 ICTをどのように利活用するかのビジョンやコンセプトがない。 観光客が板野町に2日間滞在できる観光資源がない。 流通業の進出意向が把握できていない。	・実践例や類似例があれば、参考にし事業を進めていくとともに、板野町の魅力を感じてもらえるよう効果的な取組になるよう努める。 ICTをどのように利活用するかのビジョンやコンセプトの検討。 観光客が板野町に2日間滞在して頂ける環境づくりを検討。 流通業の進出意向への情報収集をしていく。	総務課 教育委員会 産業課	B
	【KPI】 ○ICTまちづくり推進事業協力機関：2社以上	計画値	→	1社	→	→	1社			総務課	
実績値			1社	0社							

基本目標3 結婚・出産・子育ての環境づくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価																
		H27	H28	H29	H30	H31																				
16 婚活支援	★カップリングパーティー（多様な職種の男女の出会い）の開催	推進	→	→	→	→	<p>【事業概要】 板野町婚活支援事業として徳島県の『心ときめく』地域婚活支援事業補助金を活用しカップリングパーティーを実施している。 平成27年度より実施 年齢制限：20歳から45歳まで 男性（板野町在住もしくは勤務地が板野町の方） 女性（徳島県在住）</p> <table border="1"> <tr> <td>参加者数</td> <td>男性</td> <td>女性</td> <td>カップル数</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>24人</td> <td>24人</td> <td>3組</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>23人</td> <td>24人</td> <td>4組</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>20人</td> <td>20人</td> <td>5組</td> </tr> </table> <p>【課題】 カップリングパーティー毎にカップルは成立しているが成婚には至っていない。カップル成立のためにフォローが必要。</p>	参加者数	男性	女性	カップル数	平成27年度	24人	24人	3組	平成28年度	23人	24人	4組	平成29年度	20人	20人	5組	・事業を継続すると共に、カップリングパーティー時のフォローを強化し最終的に成婚に至るよう努める。	産業課	B
	参加者数	男性	女性	カップル数																						
平成27年度	24人	24人	3組																							
平成28年度	23人	24人	4組																							
平成29年度	20人	20人	5組																							
	<p>【KPI】 ○30歳未満婚姻者数：10%（前年比）（H26 男24人 女22人）</p>	計画値	51人	56人	62人	68人	75人	H27－男25、女29 H28－男21、女25 H29－男25、女20（暦年で集計）	住民課																	
		実績値		46人	45人																					
	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価																
		H27	H28	H29	H30	H31																				
17 出産支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学・高校生の将来ライフプランの教育充実 ・ 0歳児に対する各種費用の全額助成 ・ 乳幼児の身近なサポート体制の充実 	推進	→	→	→	→	<p>0歳児に対する各種費用の内、医療費は子どもはぐみ医療費で助成。</p> <p><H29取組内容と進捗状況> ・ライフプラン教育を通じて夢や目標を持って生きること、それを実現するために努力することの大切さを知る。 ・職場体験を板野中学校2年生時に原則として全員参加としている。また、職場体験の事前・事後指導の時間も設けている。 ・H29年度実績、中学2年生112名全員参加(平成29年5月1日人数)</p> <p><課題> ・生徒が学ぶこと・働くことの意義を理解し、本人が主体的に進路を選択決定する態度や意志、意欲など培うことができるようにしていくことが重要。</p> <p>・継続して事業を推進していく。</p> <p>0歳児に対する各種費用の内、医療費は子どもはぐみ医療費で助成</p> <p>子育て相談窓口を広報等によりサポート体制の周知促進。</p>	・事業を継続するとともに、生徒にとって意義深いものとなるよう努める。	住民課 教育委員会	A																
		<p>【KPI】 ○出生数：10%以上上昇（前年比）</p>	計画値	-	-	-	-	-	H26－64 H27－67 H28－90 H29－84（出生日の暦年で集計）	住民課																
		実績値		90人	84人																					

基本目標3 結婚・出産・子育ての環境づくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価				
		H27	H28	H29	H30	H31								
18 子育てに対する経済的支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ★多子世帯への保育料・幼稚園授業料の軽減 ★義務教育修了までの医療費無料化 ★学校給食費の半額補助 	推進	→	→	→	→	保育料は、第1子から無料。 義務教育修了までの医療費無料。 【幼稚園授業料の軽減】 <H29取組内容と進捗状況> ・H28年4月より、第1子からの幼稚園の授業料の無料化を実施。 ・H28年10月より、第1子からの保育園の保育料の無料化を実施。 ・父母、子どもともに板野町に住民登録を有し、居住していることが無料化の要件。 ・預かり保育についても、利用料は無料。 ・H28入園時の町外からの転入は5世帯。H29入園時は8世帯。 <課題> ・賃貸住宅に転入した場合は、一時的なものかもしれないし、定住につながるかはわからない。 <H28→H29戦略の改善見直し箇所> ・継続して事業を推進していく。 【学校給食費の半額補助】 ・要保護・準要保護を除く幼・小・中の児童生徒全員の給食費を半額のみ請求。（要保護は全額請求、準要保護は免除） <課題> なし	引き続き継続していく	住民課 教育委員会	A				
	[KPI] ○子育て世代転出率:20%減少・転入率:20%上昇	計画値	-	-	-	-	-	(年度集計、単位:件)			住民課			
	実績値		48人	55人				H27転入	H28転入	H29転入			H27転出	H28転出
実績値		31人	41人				全体	378	355	380			400	379
							子育て世代	52	48	55	37	31	41	
19 就学前幼児教育・保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ★幼児教育無償化（第1子から就学前無料）（子育て支援制度に基づく、幼稚園・保育所等） 	推進	→	→	→	→	<H29取組内容と進捗状況> ・父母、子どもともに板野町に住民登録を有し、居住していることが無料化の要件。 ・預かり保育についても、利用料は無料。 ・H29入園時の町外からの転入は8世帯。 ・H28年4月より、第1子からの幼稚園の授業料の無料化を実施。 ・H28年10月より、第1子からの保育園の保育料の無料化を実施。 <課題> ・賃貸住宅に転入した場合は、一時的なものかもしれないし、定住につながるかはわからない。	事業を推進していく。	住民課 教育委員会	A				
	[KPI] ○子育て世代転出率:20%減少・転入率:20%上昇 <再掲>	計画値	-	-	-	-	-	(年度集計、単位:件)			住民課			
	実績値		48人	55人				H27転入	H28転入	H29転入			H27転出	H28転出
実績値		31人	41人				全体	378	355	380			400	379
							子育て世代	52	48	55	37	31	41	

基本目標3 結婚・出産・子育ての環境づくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
20 子育てに対する地域ぐるみでの支援体制の充実	<p>★幼稚園、保育園の保育時間の延長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども若者相談支援事業（役場でのワンストップ対応化） ・ワークライフバランスに対する取り組み強化（リタイアメントを活用した人材確保） <p>★子育て支援拠点整備事業</p>	推進	→	→	→	→	<p>【保育園の土曜日の保育時間を延長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度より、町立保育園の土曜日保育時間を13時から18時15分に延長。 <p>【幼稚園の保育時間の延長】</p> <p>〈H29取組内容と進捗状況〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27年度より、預かり保育の開設時間を1時間延長し、午後6時までとしている。 ・H27年度より、長期休業中（夏休み等）の預かり保育の実施を始めた。（午前8時～午後6時） ・預かり保育利用人数 H27（4月）63人、（9月）52人、（1月）42人 H28（4月）66人、（9月）47人、（1月）42人 H29（4月）66人、（9月）48人、（1月）42人 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度当初は預かり保育を利用していたが、月日が経つごとに児童館コースを選択する園児が増え、預かり保育を利用する園児が減っていく。 〈H29→H30戦略の改善見直し箇所〉 ・継続して事業を推進していく。 <p>【子育て支援拠点整備事業】</p> <p>総合戦略の重点的な推進テーマである「子育て支援の充実」の一環において板野保育園の統合に併せて地方創生拠点整備交付金を活用し調理室を新たに建設した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を継続していく。 ・保育内容を充実させ、魅力ある預かり保育となるよう努める。 	住民課 教育委員会	A
	【KPI】 ○幼稚園預かり保育児童数：60人以上	計画値	60人以上	61人以上	62人以上	63人以上	64人以上		教育委員会	
		実績値		66人	66人					
	【KPI】 ○保育園入所者数と地域子育て支援センター利用者の内給食利用者数(日単位):245食	計画値			-	-	225食	参考値：平成30年現在：246食	保育園	
		実績値			-	246食				
【KPI】 ○未就学児童の増加者数：45人	計画値			-	-	41人	参考値：平成30年現在：51人	保育園		
	実績値			-	51人					
【KPI】 ○未就学児童世帯員の増加者数：122人以上	計画値			-	-	110人	参考値：平成30年現在：124人	保育園		
	実績値			-	124人					

基本目標3 結婚・出産・子育ての環境づくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
21	<p>・サッカーの小・中・高の一貫教育体制（徳島ヴォルティスとの連携）</p> <p>・板野高校の教育強化による進学校への推進</p> <p>・英語で特色ある教育環境づくり</p> <p>★町独自の奨学金制度</p> <p>・学区制線引き廃止の働きかけ（全学区）</p> <p>・リタイアメントの人材を活用した各児童館での放課後教育の充実</p> <p>・特別支援学級への教育環境の充実</p>	推進	→	→	→	→	<p>【徳島ヴォルティスと交流促進事業】</p> <p>・町PRを目的としたあさんWFの運営を特別協賛として徳島スポーツビレッジ(ヴォルティス)と協力し合い、イベントの催しの一つとして町内外の参加者同士がサッカー教室を通じて交流を深めている。</p> <p><課題></p> <p>実施機会や回数の検討。</p> <p>【町独自の奨学金制度】</p> <p>・返還の期間内(高校8年、大学10年)に板野町に住民登録を有し、かつ居住し、世帯に町税等の滞納がないとき、奨学金等の全部または一部を免除する。ただし、1年ごとに免除申請届が必要で、免除額は届出のあった1年分ごと。</p> <p>・新制度創設に伴い所得認定基準を緩和(H27までは生活保護基準の1.3倍→H28から1.5倍→H29から1.6倍)</p> <p>・H28年度以降、貸与申請者は大幅に増えている。定住による返還免除制度導入の効果が表われていると考えられる。</p> <p>・H28年度貸付終了した者のうち定住を理由とした返還免除申請をした者は1名。</p> <p>・H29年度貸付終了者のうち、返還免除申請者は新規2名、継続1名。</p> <p><課題></p> <p>・申請があっても、所得認定基準を超えているため不認定となってしまう。</p> <p>・定住を理由とする返還免除申請者が少ない。</p> <p><H29→H30戦略の改善見直し箇所></p> <p>・継続して事業を推進していく。</p> <p><H29取組内容と進捗状況></p> <p>・小学校英語指導講師による英語学習で、早期より外国語に慣れ親しむ。</p> <p>・学区制線引き廃止の要望を出していく予定(H29年度時点)</p> <p>・受給要件を満たす板野町立の小・中学校の特別支援学級に在籍する児童又は生徒の保護者に対して、学用品費や校外活動費等の就学に必要な経費の一部を援助する。</p> <p><H29→H30戦略の改善見直し箇所></p> <p>・継続して事業を推進していく。</p>	<p>・事業を継続していく。</p> <p>・地元の中学校、高等学校へ募集案内のチラシを配付し、奨学金担当教諭と連携をとり、周知に努める。</p>	教育委員会	A
	<p>【KPI】</p> <p>○新制度奨学金(緩和規制)の創設:定住率50% <再掲></p> <p>></p> <p>(H26:2人 累計18人 定住率50%)</p>	計画値	-	-	-	-			教育委員会	
		実績値		1名	3名					

基本目標3 結婚・出産・子育ての環境づくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
22 若者専用住宅整備	<ul style="list-style-type: none"> ・既存町営住宅の若者向け住宅への改修 ・民間の建託事業に若者向けアパートの建築助成 ・立地環境を活かした住宅環境の整備（空き家を活用） ★他市町村からの転入者を対象にした子育て世代対応県産材を利用した住宅の整備 ・他市町村（県外）からの転入者の居宅新築等の補助金制度・税制度の優遇の創設 ・地域おこし協力隊を活用し、定住・定着の推進 	推進	→	→	→	→	<p><H29取組内容と進捗状況></p> <ul style="list-style-type: none"> ・H27年度に町営平田団地南側に用地を取得したが、現状は購入した状態のままである。面積は1,435㎡ また、町内に多くの民間アパートが建設されている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・町営平田団地の駐車場が不足しており、取得済みの用地は平田団地駐車場として整備し、戸建て住宅を建設する別の用地を取得する必要がある。 <p>【H29取組内容】</p> <p>（地域おこし協力隊を活用し、定住・定着の推進）</p> <p>取組は無かった。</p> <p>【課題】</p> <p>（地域おこし協力隊を活用し、定住・定着の推進）</p> <p>地域おこし協力隊の任用</p>	<p>事業を継続するとともに、建設候補用地等と、活用できる交付金等を探す。</p> <p>本町に見合う事業で、地域おこし協力隊が必要と判断されれば、検討していく。</p>	建設課産業課	B
	<p>【KPI】</p> <p>○子育て世代（転入者対象）住宅整備：1戸建て概ね10戸以上（転入者概ね40人以上） <再掲></p>	計画値	→	→	→	→	10戸以上		建設課	
		実績値		-	-					

基本目標4 活力ある暮らしやすい地域づくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
23 多世代交流の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動の拠点の環境整備（あせび温泉の活用） ・老若男女が気安く集まれる身近なサロン機能の整備 ・養護老人ホーム入所者の拡充（県外高齢者移住促進） ・介護予防事業・高齢者学級の充実 	推進	→	→	→	→	<p><サロン事業概要と進捗状況> 地域の人同士のつながりを深める自主活動の場（サロン）の設置・運営等を支援する事業。 今年度より、生活支援体制整備協議体において、地域資源等の把握・整理を行っている。</p> <p><介護予防事業> 第1号被保険者を対象に、生活機能の維持・向上を目的として、介護予防教室、出前講座を実施している。 ・介護予防教室 42回開催592人参加（平成29年度） ・出前講座 12回開催269人参加（平成29年度）</p> <p><事業概要と進捗状況> 養護老人ホームの空室に県外高齢者の移住希望者に入居してもらう。8月1日現在入居者34名であり、残り14人受け入れ可能となっている。県内他市町からの入居はあるが、県外からの入居者は少ない。</p> <p><課題> 入居者が増加するための施策検討。</p>	<p><サロン事業> 地域にあったサロン運営についての協議をすすめていく。 <介護予防事業> 継続実施</p> <p>引き続き継続する</p>	福祉保健課 老人ホーム	B
	【KPI】 ○高齢者等・孫世代交流サロンの構築	計画値	→	→	→	→	構築		福祉保健課	
		実績値		-	-					
	【KPI】 ○徳島型CCRC構築への参画：H31	計画値	→	→	→	→	参画		福祉保健課	
	実績値		-	-						

基本目標4 活力ある暮らしやすい地域づくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
24 消費喚起の拡充	<p>★プレミアム商品券継続拡充し町内商工業の振興支援</p> <p>★高齢者（75歳以上）タクシー助成券（試行）</p> <p>★敬老年金の継続</p>	推進	→	→	→	→	<p>【H29取組内容】 （プレミアム商品券継続拡充し町内商工業の振興支援） 地元消費の喚起による地域経済の活性化に向けて、板野町内で営業する事業所等において使用できるプレミアム付き商品券の発行事業を板野町商工会とともに町単独の補助事業として実施しました。</p> <p>【課題】 近隣に超大型店が相次ぎ出店してきている昨今、地元商業者にとっては、既存顧客の維持が最大の課題である。</p> <p><タクシー助成券の概要と進捗状況> 75歳以上で要件を満たす高齢者がタクシーを利用する場合に、その料金の一部を助成することにより、外出（買い物・通院）等を支援する事業。 【交付金額】年額6,000円（500円×12枚/1人あたり）、【利用可能なタクシー事業所】板野タクシーと羅漢タクシー 平成28年9月より事業開始し2年目、平成29年9月～翌年7月までの11ヶ月間での利用率は35.0%、月平均の利用者数276人、タクシー券の利用目的は、57.8%が通院、19.1%が買い物、23.1%がその他となっております。</p> <p><課題> タクシー券の交付事業を初めて2年余りが経過し、事業の周知をなお継続していく。 利用者の現状・ニーズを把握しておく必要がある。</p> <p><敬老年金の事業概要と進捗状況> 75歳以上で要件を満たす高齢者に敬老年金を現金給付し、長寿を祝福し、生活意欲を高め福祉の増進を図ることが目的。 【給付額】5,000円（年額/1人あたり） 歴史のある事業であり、高齢者は楽しみにしている施策である。 現金手渡し給付を基本としており、給付対象者の安否確認も兼ねている。</p>	<p>平成30年度では実施する予定はないが、町内商店や事業所にとって、既存顧客の流出防止に多大な効果があれば、今後も事業を推進していく。</p> <p><タクシー助成券> 平成28年度からの取組みを継続しつつ、平成30年度にアンケートを実施し、施策の参考とする。</p> <p><敬老年金> 引き続き継続する</p>	産業課 福祉保健課	A
	<p>【KPI】</p> <p>○プレミアム商品券：プレミアム率20%継続・高齢者（75歳以上）タクシー助成券：H27阿波とくしま商品券波及効果を基準に検証</p>	計画値	-	-	-	-	-	<p>H27 商品券発行枚数1,000円券×48,000枚</p> <p>H28 H27に前倒して実施</p> <p>H29 商品券発行枚数1,000円券×36,000枚</p>	産業課 福祉保健課	

基本目標4 活力ある暮らしやすい地域づくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価
		H27	H28	H29	H30	H31				
25 生活支援策の充実	・生活困窮者の支援強化（生活困窮者相談所やセーフティネットの強化）	推進	→	→	→	→	<p><事業の概要> 生活困窮者自立相談支援事業は、県が県社協に委託し実施していることから、町と町社協との相談窓口の完全一本化は困難である。現時点では、生活保護の新規相談時において、町と町社協の担当者が同席し、連携強化により対応している。</p> <p>生活困窮者は、経済的な問題のみならず、精神的な問題、家庭の問題など複合的な問題を抱え、それぞれが複雑に絡み合っている場合が多い。このような生活困窮者の自立を促進するため、包括的・個別的・早期的・継続的な支援を実施する。</p> <p><H28取組内容と進捗状況> 相談受付件数23件 プラン作成件数8件 一般就労件数4件 広報6回(広報すがお3回、社協だより2回、チラシ1回)</p> <p><H29取組内容と進捗状況> 相談受付件数7件 プラン作成件数5件 一般就労総数4件 広報3回(広報すがお1回、社協だより2回)</p> <p><課題> 潜在的な相談者の把握について検討する。</p>	事業を継続するとともに、相談者かどのようにしてこの窓口に繋がったのか情報を得、今後の制度の周知に生かす。 【今後の取組方針】生活困窮者の相談が適時・適切に行われるよう、効果的な周知に努める。生活保護等の相談者にも必要に応じ情報提供を行う。	福祉保健課	A
	<p>【KPI】 ○各機関・くらしサポートセンターの連携体制の強化：相談窓口の一本化</p>	計画値	-	-	-	-	一本化		福祉保健課	
	実績値		-	-						
26 シルバーパーワーの活用	・「（仮称）街づくり協力隊」の編成	推進	→	→	→	→	<p><事業概要と進捗状況> 住民が主体となり、ボランティアでまちづくり(奉仕作業等)に参加していただく人を募集する。可能な範囲での参加とし、作業前にお知らせする。社会貢献活動に参加することで、自分自身の生きがいや仲間づくりにつなげる。</p> <p><課題> 奉仕作業の内容とボランティア登録の方法</p>	引き続き継続する	福祉保健課	B
	<p>【KPI】 ○「（仮称）まちづくり協力隊」編成：H31</p>	計画値	→	→	→	→	編成		福祉保健課	
	実績値		-	-						

基本目標4 活力ある暮らしやすい地域づくり

	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価		
		H27	H28	H29	H30	H31						
27 住民参加による実行部隊の形成	・「（仮称）板野町地方創生町民会議」の設立	推進	→	→	→	→	<p><事業概要と進捗状況> 地方創生の指針となる板野町総合戦略を平成27年10月に策定した。この戦略には「PDCAサイクル」の構築、実行が掲げられており、「産官学金労言」の各分野で構成される有識者会議で検証することとなっていることから、平成30年3月に12名で構成する板野町総合戦略評価委員会を設立した。これにより昨年度の各事業の効果の検証などを行っている。</p>	総合戦略の計画期間が平成31年度迄であることから来年度見直しを行う必要がある。	総務課	A		
	【KPI】 ○「（仮称）板野町地方創生町民会議」設立：H28	計画値	→	-	→	→					→	総務課
		実績値		-	設立							
	【KPI】 ○「（仮称）板野ふるさと会」創設：H31	計画値	→	→	→	→					創立	総務課
実績値			-	-								
	主要事業の概要・数値目標	工程（年度別事業計画）					事業概要と進捗状況・課題	今後の取組方針	担当課	自己評価		
		H27	H28	H29	H30	H31						
28 消費者被害防止やエシカルの浸透	★「新未来創造・消費者行政推進特区」事業			推進	→	→	<p>【H29取組内容】 （要見守りリストの作成：H30） 作成に向けて、消費者庁等と協議（見守り訪問件数：1500件） 消費生活相談員が訪問を実施（エシカル消費の認知度：2割） 講座実施、広報紙への掲載、エシカル消費推進宣言の実施等を行った（小・中学校を対象とした授業実施） 作成に向けて、推進</p> <p>【課題】 どの事業においても、様々な団体や機関との連携が重要課題である</p>	引き続き、事業の推進を行い、平成31年度の事業の完了を目指す。	産業課	B		
	【KPI】 ○「要見守りリストの作成」作成：H30	計画値			→	作成						産業課
		実績値			推進							
	【KPI】 ○「消費者被害防止のための地域見守り活動及び啓発活動等の強化」見守り訪問件数：1500件（H31）	計画値			→	→					1500件	産業課
		実績値			推進							
	【KPI】 ○「エシカル消費の浸透」認知度：2割（H31）	計画値			→	→					2割	産業課
実績値				推進								
【KPI】 ○「小・中学校を対象とした消費者教育」授業実施：全学年（H31）	計画値			→	→	全学年	産業課					
	実績値			推進								

基本目標4 活力ある暮らしやすい地域づくり



外部評価委員からの意見

板野町内には3、4、5番の札所があり、3つも揃っているところは他にないと思う。歴史遺産にはまだなっていないが、先駆けて3カ所をPRしていったらどうか。

アンジェラアキさんを起用したPRであるが、この表現について少し違和感がある。実は私ごとになるが、学生と向き合って、徳島のゆかりの歌手って誰って聞いたら、米津玄師、チャットモンチー、アンジェラアキ。

アンジェラアキさんにつきましては、お聞きすると、今ミュージカルの勉強をやっていて、活動はやっていないが、楽曲の活動はされているようである。

この前確か、NHKのミュージカルの番組収録があったときに、徳島の若者が歌うんで楽曲の提供を求めたら、喜んでやります。みたいな感じになっているみたいなので、若い人にとってみたらそれなりのインパクトがある人なので中止するのではなく、もう少し長い目でおつきあいされてはどうかと思う。

札所では、この1、2年お遍路さんも、バスもものすごく少なくなっている。この頃になって1、2台来るようになって、以前は毎日10台以上き来ており、10分の1程度である。ここ30年来で今年が一番少ないんじゃないか。

平成32年度3月に道の駅完成を目指して頑張っておられている。道の駅と3つの札所との関わりをしっかりと持って、町内での滞在を少しでも長くしていただき、お金も落としていただくような作戦をとっていただくと町の活性化になるのでは。

1時間でも2時間でも板野町に滞在していただく為、道の駅は大きな手段となるので、今後の方向性というものを含めて指摘いただければ。

あすたむらんどでは入園者数が昨年度から非常に厳しくて、天候とかイベントのマンネリ化というのもあるかと思うが、出足は悪いなと感じている。

年間43万人の来園者があり、県外の方が4割いるので、これらの方を板野町にどのように留めていくか、これが以前からの課題ではあります。今あすたむらんどで考えているのは、どこかの施設を交えてのスタンプラリー、一般的ではあるがそこから始めようと。

あすたむらんどから町内に周遊している人がどれくらいいるのか。どのようにあすたむらんどからお客さんが動いているのか、これらの状況を調査していこうかと考えている。

道の駅が完成するまでに、ある程度のデータ収集が出来れば思っている。

札所、道の駅、あすたむらんどこれらを繋げていかないと。せっかくの資源が、ばらばらではもったいない。

物語性のある周遊ができれば。また周遊するバスみたいなものを考えてみてはどうか。

あさんライブミュージアムで以前はバスの運行はしていたが、そこからなかなか拡げられなかった。

バスの周遊では、町が独自でふるさと巡行バスというのを春と秋の2回、板野町を紹介する意味で町外の方に乗っていただくということをやっている。時期によるが、乗車の方はある程度されており、このあたりをもっと活用すれば、いいと思うが。

工業短期大学で子ども達が遊べるような水素を使ったゴーカートみたいなのを作っており、道の駅で周遊させるようなことを考えている。
新聞か何かで、ある自治体が水素を使って発電スペースにおいてSLで子ども達が遊ぶ周遊設備があったと思うが、ああいうものを水素ステーションを使ってやるのもどうかと、あすたむらんどと話しながら考えてはいた。
再生エネルギーをしっかりと活用していくということは、今の時代の要請でもありますし、ドイツでは本格的な水素を活用した列車が走るということで、大きなニュースになっている。
道の駅で大学挙げて取組をしていただくことで活性化に繋がるのでは無いかと思しますので、コラボレーションよろしくお願ひしたい。
戦略の中でも、金融機関とのコラボレーションをして、働く場所の確保は、重要なポイントとなっている思う。
新築の家の建設にあたり、近隣に比べたら住宅ローンの取扱が少ない。
これらについては学区の問題がひとつのネックになっているところがあるのではないかと。町の施策として保育等の無償化して、若い方が定住しているけど、賃貸住宅に住まれている。
板野町は北島町、藍住町に比べると地価も随分購入しやすい。本来であればもっと若い方が一戸住宅を構えて、そのローンのお手伝いを金融機関が出来れば。学区の線引きがあって、総選校に板野町からは、中々行きにくいところがあると思われる。若い方が無償化で入ってこられてもご子息が中学生や高校生に進学する時に、よそに出ていかれてしまうと、最終的には住宅はそちらのほうに建てられるという現状があると思う。
板野町は、環境は非常にいいですし、土地もたくさんありますので、そこがもう少し深まれば活性化に繋がっていくんじゃないかと。
学区制の問題であるが、先般学区制の問題を検討する会議が立ち上がり、本町からも石井教育長が委員のひとりとなって、1回目の会がおわったところであります。これから5回程度の会を重ねて最終的に見直しについてを検討していくということになっているわけですが、一気に全廃というのは難しいようで、情報としては、現在は板野町は8%くらいの枠であるが、総選枠。これを何%か枠を広げるかといった検討になるかと思う。この学区制のおかげで、板野町は、なかなか人口が増えないし町の活性化に繋がらない。
保育園、幼稚園とかまでは板野町にいていただいて、中学校手前くらいになってきたら隣の町に移っており、そういう形が今まで多かったと思いますが、なんとかこのあたりを止めなければならないという状況である。
全国的に見ると学区制を撤廃したのが50%を超えました。ですから今そういう動きであることから、多分県教育委員会も重い腰をあげたと。守られる側と攻める側両方の立場がありますので、あとは全国の動きの中で。高知県は全県区になったと思うけど、そういう風に流れはそういう方向にあるんだと。少なくとも地価にも影響してきているというのは間違いない。
あすたむらんどで開催されるあさんウォーキングフェスタが盛況だったと。最近ウォーキングも流行っているが、最近ロードバイク、自転車をされている方が非常に多いと思う。道の駅の中にもロードバイク用の駐輪場、そういった形でロードバイクの方が徳島県内誰でも来ていただけるように整備すればいいのではないかと。
官だけではむずかしいようですが、あすたむらんどに多くの来場者がおられるが、遊んでそのまま帰っている。聞くと、あすたむらんどで夕方まで遊んで、そこからどこかで夕食を食べて帰られている。板野町には夕食を食べれる施設が無い。そういった飲食のところに誘致するか。

徳島駅前がダイワロイネットが出来て、秋田町から駅前の方に飲食店や人の流れが変わってきている。板野駅の辺りもそういった形で活性化できたら、町も活性化するのでは。

あすたむらんどから、両親や子ども、大人の方も遊んで食べて飲んで帰れるというところもできると、あせび温泉もありますし、そういったところが出来たらなど。

板野町は小さい町だが板野高校、支援学校、工業短大がある。小さい町にそれだけ学校が揃っている地域は少ないように思ので、高校生とか特に徳島県とか人口が減っている地域は18歳から22歳の人口が一番減りが多いと思うので。そういう人たちを外に出て行かない、出て行かせないために高校とか短大とかと連携をとって、出来るだけ地元に残れるような政策を進めていただけたらありがたいと思う。

道の駅も建設されることから、板野町は広い土地があるので企業誘致等、勧めてもらえたらありがたい。

板野町は消費者行政推進事業等を実施していることから、板野町のいいところを活かしてもらったらいい人材が育っていくと思う。

公共職業安定所として是非とも板野町の活性化に協力したい。

子育てするなら板野町ということで、評価がAでそれは非常に良かったと思うが、それに加えて幼児教育を受ける時代は転入者が多くても、また高校になったら出て行くということですが、それでも幼児教育を受けるためにそのあたりまででも町の住民が増えると言うことは、やっぱり大事なことだと思う。本年度幼稚園教育要領、認定こども園の教育要領等が一斉に改訂になり、特に保育所については今までは保育に欠ける子どもを保育するところということだったが、小学校を見据えたということで、どの施設に通っても同じような質の教育が受けられるということで、保育園の方は保育に加えて教育もしましょうという風に大きく変わった。

それでその中に幼稚園のようにしっかり園内研修あるいは園外研修を施設長の責任をもってやりましょうということがしっかり示されているので、今年度春から町の保育園の先生方にはその指針に沿ってしっかり勉強していただきましたので、子ども達の姿が良く育ったという風なことが町内の方からもはっきり見えるようになお一層努力していただいて、それで幼稚園保育所が無償化さらに中身も素晴らしい充実しているという評価を得られるように、ご尽力いただけたらありがたいと思う。

ふるさとということを考えた場合には、保育所とか幼稚園・小学校その時代ってものすごい大きい、心の中に刻まれていく。これからもしっかり充実を図っていかねばならない。結果的に言うとそれは少し時間はかかると思うが人口維持にも繋がってくるだろうし増加にも繋がってくるだろう。あとは学区制の問題もしっかりやっっていこうと。

4ページの今の話にも絡むが、出身者にターゲットを絞った情報発信でCと書いてあるが、そのなかで表現がどうかと思っているが、板野町では県南のようにきれいな海はないが、山があっても県西部のような大自然ではない中。とこういう問題ではないと思います。素晴らしい文化資源もあるし田園都市でもあるし。南には無い、西には無いそういう素晴らしい自然あるいは人情がありますので、そういう風に卑下するのではなく、むしろ一回板野町をしっかりと見つめ直す中で、十分若者、何らかの形で絡んで、絡みのあるゆかりのある若者に訴えていく力は十分にあると思います。

ここはIターンではなくUターンとかは考えていく必要があるだろうと思う。心に刻まれた人たちですので、ふるさとを思う気持ちも当然あると思うので、自然とか言う事以上に人と人とのつながりみたいなもので引きつけてくるという非常に重要な戦略だろうと思います。

徳島県では若者も含めた移住者施策に取り組んでおり、総合戦略のKPIについて1,200人から1,600人に大幅に増やしたというところでございます。特に若者というところにターゲットを絞り、先日東九オーシャンフェリーを使った20時間の長い旅の中で徳島の魅力を首都圏の大学生に感じてもらうとか、県内の高校生に県内回って魅力を感じてもらうとか、企業を募って若者の世代に向けていろいろ取組をすすめているところである。

板野町はあまり田舎過ぎるでも自然がある。逆にそこがメリットなのかなと感じている。板野町は魅力があるところだと思うので、自然ばかりでは無く全然都会過ぎないところ、そういうものを求めている方って、実は非常に増えているんです。いきなり田舎に行って不便なところに行ったら生活に困ると。逆に都会過ぎたら都会と一緒にではないかと。非常に一番いいようなところでないのかなというところもあるので、そういった部分で取組をされると非常にいいのかなと。

県の方からのお願い、KPIを1,600に上げさせていただいて全県的な取組をお願いしたいという中で、各市町村さんに移住交流支援センターの開設をお願いをしたらとところでございますが、そういった取組をしていただければと思っております。

地方創生の取組が、5年定義ですかね。当初その頃の移住って都会から見ると本当に田舎って感じだったんですけど、最近の動きとしてはある程度生活基盤教育の受け皿もしっかりした、地方のある程度そういう環連都市部というのではなく、そういう都市の機能もあるようなところを非常に好む傾向が来ている。

そういう意味では、板野町はチャンスではないかと思えます。板野は板野で、藍住とか松茂とか北島とは違った文化的特徴をもっているんで、再度、町の方で議論いただいたほうがいいのではないかと思う。

しっかり育った方は、一回都会に出るのはいいけど、ふるさと板野のために頑張ってみようという風な情報の発信とか相談窓口みたいなのは、今こそ持つべきではないかと思う、ご指摘いただいたことは同感です。このチャンスは失うべきではないのかなあと思えます。